

対策が必要となる場面について

歩行者がハイブリッド車等の接近を認知していない場合

①		<p>駐車場の枠内に止めている車を発進したいのに、エンジン音が出ないため車の前で立ち話をしている人が車の発進に気付かない</p>
②		<p>駐車場の歩行者が気づかない</p>
③		<p>①と同様で、後退発進したいケース</p>
④		<p>自宅駐車場で遊んでいる子供が気づかない</p>
⑤		<p>狭い商店街歩)反対側に渡ろうと中央に踏み出したら、すぐ背後に車両がいてヒヤリ</p>

⑥		<p>駐車(停車)から、ウィンカー出して発進しようとしたら歩行者が道路側から追い越そうとしてきてヒヤリ</p>
⑦		<p>前方から前を良く見ていない歩行者等が対向してくるケース</p>
⑧		<p>見通しの悪い交差点や、幹線道路と接する路地で、視覚障害者が道路を横断しようとするケースや、思わぬ飛び出しが想定されるケース</p>
⑨		<p>話に夢中になっている人たちの横を通り過ぎるケース</p>
⑩		<p>通学路で、小学生が登下校して何10mも連なっているケース。いつ飛び出してくるか判断できないため鳴らしっぱなしにする必要がある</p>

接近通報音が不要と想定される低速走行シーン

自動車専用道路(高速道路、有料道路等)での渋滞時
車がつらなった幹線道路での、のろのろ運行や渋滞時
人気の無い、見通しの利く道路(上記以外、農道など)
車道と歩道が分離されている道路直進時の信号停止、発進時
交差点横断歩道手前で、止まろうとして減速しているとき。
料金所、ガソリンスタンド等相手が明らかに気づいている場合
発進意図の無い停止時(シフト位置が、前進、後退以外)

接近通報音がためらわれる低速走行シーン

深夜、早朝等静かな住宅街
イベント会場(式典、集会など)のそばで音が迷惑になりそうな場合
接近通報音に対する苦情(乗員または周囲の人から)を受けた場合
人気のない立体駐車場等で音が無用に響く環境下